

慈雲

17号

2011/ 4

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zuirenji@nifty.com

http://www.zuirenji.net/

SinsyuuOotaniha

JiunzanZuirenji

Jiunkai



世尊亦遣

尊者富樓那

為王說法

【『觀經』の言葉】

「世尊、また尊者富樓那^なを遣わして、王のため^るに法を説かしむ。」

釈尊は、幽閉されているピンバシャラ王の請いに答えて、説法第一の仏弟子フルナをお遣わしになられ、法を説かせられます。

「法」とは、仏法の事であり、あらゆる物事は全て自分の中にそのことが起こる種（因）がある。種がないものが突然起こることはない、というものです。

これを聞いた王は、自分が息子のアジャセ太子によって幽閉され、やがて殺されることも、自分のこの身にそうなる種（因）を持っていたのか、と外を向いていた目が内を見る目に転ぜられたのです。

【東日本大震災によせて】

長塩 浩史

まずは震災で亡くなられた方々のご冥福をお祈りしますと共に、被災された方々の一日も早い復興と安らぎを願います。

三月十一日に発生しました未曾有の大震災は多くの方々の生命、財産、安らぎを奪ってゆきました。

私は地震発生時に大阪に在る仕事場で仕事をしておりましたが、ゆっくりとした揺れがあり、地震国日本への慣れから「またか」とのんきに思っておりました。

少し気になりインターネットやTVの報道を見ますと、かなり大規模な地震が発生した事を知りましたが、海底で発生した地震なので『阪神・淡路大震災』ほどの被害は出ないだろうと、またもやのんきに思っただけで仕事を続けました。その後、時間が経つにつれ、各種報道により津波及び津波により運ばれた火災で多くの被害が出ている事を知り、慣れによる認識の甘さに恐怖し、反省させられました。

また、その報道によると世界はこれほどの大惨事にありながら、暴動や略奪が発生しない事、被災者が被災者を助けている事、子供が大人と比べても遜色のない自立性を持ち行動している事等に賞賛がわき起こっていると伝えていきます。この報道を見て、稀薄になったと言われる人と人との繋がりもまんざらではないなと感じていたのですが、「それは農業や漁業という、協同作業で生計を立てている地方だからだ。」と言われ、「京都では？」、「自分は地域社会の一員？」と改めて考えさせられました。

そして、賞賛の一方で買い占め（当人は買い占めとは思っていないでしょう）があり、多くの義援金 支援をよせながら、自分（自分の近い人達）だけはという考えの人間の二面性が現れたとも感じました。

福島原子力発電所事故に関しては、元々科学的興味旺盛ということもあって、当初から報道される事象に「そんな程度やないやろ、楽観視しすぎじゃないか？大丈夫か？」と疑念を持っていました。案の定、時間が経つにつれ被害の大きさ、対応のまずさが露見し、「やっぱり」と思いました。

しかし、地元住民の方々のご苦労や、現場で命の危険にさらされながら賢明に作業されている方々が報道され、「やっぱり」では済まされない事を思い知りました。

政府、東京電力の対応も悪かったと思いますが、外部の人間（識者、政治家等）やマスコミ報道も重箱の隅をつつき、一方的に揚げ足を取っているようにも思えます。

私は報道を見聞しているだけで、このような事を言うのはおこがましいのですが、色々な人の立場、心情、状況を広く考え思いついて、自分自身がどうすべきか答えを出すべきではないでしょうか。

良いことは見習えばよいのですが、何が良いことかは時々刻々、場所、状況により変化すると思います。善意と思われる事でも、自分なりによく考え結論すべきではないでしょうか。

私自身としては、論理的思考で考える傾向が強いのは意識していて、心情的・教想的思考も必要だと判っているのですが、それを再認識させられました。

あらためて、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

【春の彼岸法要】

先日三月二十一日に、春の彼岸法要を執り行いました。
 今回は天候のすぐれない中、いつにも増して多数の方々にご参加いただきました。

引き続き慈雲会総会を行い、慈雲会会長 小西慶典より『二十二年度 決算報告書』『二十三年度 予算書』『二十二年行 事、事業報告書』『二十三年度行 事、事業計画書』(事業計画は左に抜粋、詳細は以降の慈雲にてお知らせします)について説明させていただきました、ご参加の皆様より賛成の決議をいただきました。

行事予定

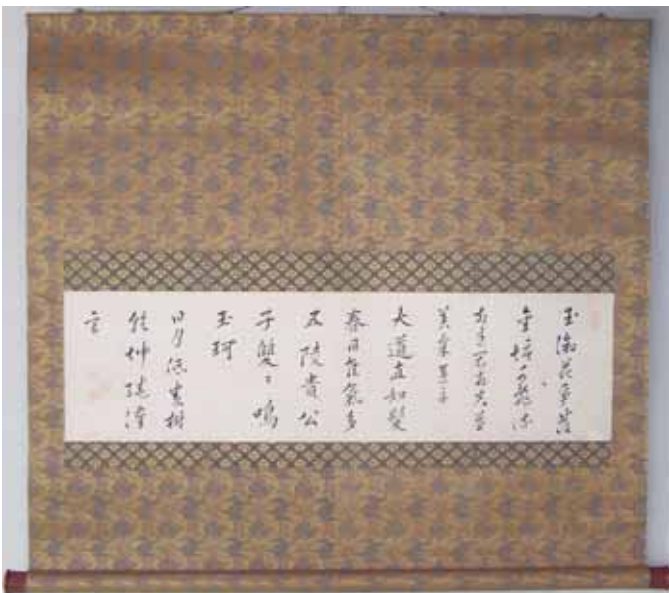
- 五月二十日(金) お磨き
- 八月 三日(水) お盆のお磨き
- 九月二十日(火) 秋の彼岸のお磨き
- 九月廿三日(金祝) 秋の彼岸会
- 十一月十一日(金) 報恩講のお磨き
- 十一月十三日(日) 報恩講
- 十二月二十日(火) お正月のお磨き

また、今回は『慈雲』十六号で紹介させていただきましたように、法話ではなく、慈雲会役員 藤井聲舟により『山崎闇齋と伊藤仁齋』と題して講話をさせていただきました。



山崎闇齋と伊藤仁齋は、江戸時代初期に京都で大活躍した儒学者で、堀川を挟んで住んでおられたそうです。瑞蓮寺も元は堀川に在り、多少なりともご縁を感じます。

この講話には正林寺住職 大橋靖様・閑唱寺住職 藤井洋様も聴講にお越し下さいました。



伊藤仁齋の書蹟



山崎闇齋の書蹟

【被災者支援のつどい】

先日三月二十四日に東本願寺において『被災者支援のつどい』が催され、瑞蓮寺からは三十二名の方が参加されました。



これは東北地方太平洋沖地震でお亡くなりになられた方々を追悼するため『宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌』

第一期法要に代わって催されました。五十年に一度の御遠忌法要を、このような悲しい形で行わなければならなかった事に心が痛みます。

【報告】

先日三月二十一日のお彼岸に皆様方よりお預かり致しました義援金は二万三千五百十五円となり、被災者支援のつどいにご参加頂きました方より頂戴いたしました義援金三万三千円と合わせて本山に納めました。

【お知らせ】

五月二十日（金）午前九時より

仏具のお磨き^{みが}をいたします。

七百五十回御遠忌を記念して『親鸞展』が催されています。

期間 三月十七日（木）～

五月二十九日（日）

午前九時～午後五時

場所 京都市美術館

また、親鸞聖人の御師匠であります法然上人につきましても御遠忌を記念して、

京都国立博物館で『法然上人八百回忌特別展覧会』が催されています。詳しくは関係各所または瑞蓮寺及び慈雲会までお問い合わせ下さい。

【編集後記】

私も先日三月二十四日に本山にお参りし、『被災者支援のつどい』に参加させて頂きました。

被災された方々を偲び質素な催しとなりましたが、参加された方々のお念仏は力強く、被災された方々を思う心の表れと感じました。

現地では被災された方々、復興のため尽力されている方々等、ご苦労が絶えないと思います。また、この慈雲をご覧の方々の中にも被災地に関係の有る方、ボランティアに参加された方等、おいでになると思います。

一日でも早く心安まる日が来る事を願います。
長塩浩史

瑞蓮寺のホームページができました。皆様一度ご覧下さい。

<http://www.zuirinji.net/>